

景 / 観 / 文 / 化

NPO法人 景観デザイン支援機構 けいかん・きこう <http://www.tda-j.or.jp>

2014-06-01

目次

- 表紙
「日本橋の都市再開発における景観を観る」
／(文) 金子 祐介
／(写真) 川澄・小林研二写真事務所
- 見開
TDA NEWS
「まち歩きイベント 2014」緊急報告
／高橋 徹
「日本橋室町再生計画」プロジェクト報告
／團 紀彦
- 見開
ランドスケープ事情
「サントペテルブルグの都市景観」
／須田 武憲
- 裏表紙
景観文化Q&A
「街とアート」その2 / 工藤 安代
- 裏表紙
景観ビジネス最前線
／三井不動産㈱・三井不動産レジデンシャル㈱
- 裏表紙
ホワイトボード



©川澄・小林研二写真事務所

日本橋の都市再開発における景観を観る

東京都中央区日本橋室町で官・民・地元が一体となった再生計画により、日本橋の景観がドラスティックに変わろうとしている。しかし、商業ビル群の設計のためか、今までの建築家像を軸においたお堅い議論の場では語られることが少ない。街並を形成しているのは、実際こうした商業建築の連なりであることは言うまでもない。さらに、この地域の景観を創っているものは、商業ビル群だけではなく、その商業ビル群を支えている都市下部構造（ソフトを含めた都市インフラ）である。

日本橋での官・民・地元が大切にしたい都市下部構造とは、地域内でのエネルギー最適化制御や自然との共生、コミュニティ教育・伝承等である。

ここの景観にこれらがどのように影響を及ぼしているのだろうか？ 先ず目に付くのが、環境エネルギーを利用した小型の風車やソーラーパネルの設置だ。高層ビルのデメリットを逆手にとったかたちで都市の隙間を利用し配置されている点で注目に値する。次に、中央通りに面した商業ビル群の裏手に再建する福德神社の計画も見逃してはならない。本殿に先んじて建設された福德神社の事務所がおかれた場合は、超高層の隙間を長屋の間に設けられた路地のように見立てアプローチが作られている。さらにその先のオープンスペースに樹木を配置し、施設群を訪れた多くの人々の憩いの場所としている。

このように地元の発想を大切に、かつ現代的な技術を利用し日本の歴史的都市空間構造を可能にする都市景観の設計手法は、今後の日本の都市再開発における手本になるのではないだろうか？

TDA 正会員 金子 祐介

「まち歩きイベント2014」
緊急報告
「日本橋室町再生計画」
プロジェクト報告

今年度のTDAまち歩きイベントが平成26年5月10日に藤沢市・湘南C-X（シークロス）で行われました。JR辻堂駅北口に複合的な都市機能を導入した大規模開発で、プロジェクトのキーパーソンの案内と説明を頂き、活発な意見交換が行われました。

また、本号の特集として、東京の日本橋室町地区で進められている再生計画を取り上げています。この計画は、単独ではなく周辺を含めた街ぐるみで、かつ地元・民間が主導して進められているのが特徴です。江戸の基盤を引き継ぐ伝統的な街並みに、高層ビルなど現代の東京の都心景観がどのように統合されるのか、開発に加わったデザイナー・アーキテクトの團紀彦氏から報告を頂きました。

1 「まち歩きイベント2014」 緊急報告 『デザイン・コラボレーションのまちづくり 湘南C-X～大規模開発による、街の景観形成をさぐる～』報告

今年度のTDAまち歩きイベントは、JR辻堂駅北口に展開する湘南C-Xで行われました。

当日は、約25名の参加者がJR辻堂駅北口に集合し、このプロジェクトのキーパーソンである長瀬光市氏（慶應大学特任教授・元藤沢市経営企画部長）と菅孝能氏（山手総合計画研究所 代表取締役）の案内と説明を受けながら街を歩きました。その後、地区内の大規模商業施設内の会議室にて、まちづくりの事業の仕組みと仕掛け、創造的デザイン協議や個別デザイン等について説明を受け、参加者からの質疑と意見交換が活発に行われました。懇親会の場でもその延長戦が続き、景観デザインについて参加者の熱い議論が交わされました。

湘南C-Xは、広域的な拠点整備構想や景観形成特別地区指定にもとづく公民連携に



まち歩き冒頭のガイダンス

よる大規模開発です。大規模プロジェクトとしては、極めて短期間に事業化されたことも特徴であり、その戦略的まちづくりと景観を含めた創造的デザインを達成するシステムには大いに注目すべきものが含まれています。また、都市的なスケールの開発プロジェクトの景観づくりには、様々な分野の専門家や関係者が集まって行われます。湘南C-Xは、まさに街全体としてデザイン・コラボレーションが多種多様に行われて景観形成が達成された格好の舞台です。

TDAとしては、都市景観デザインの活動の最新事例として、次号においては、湘南C-Xの特集を組み、具体的な内容について紹介する予定です。（高橋 徹）



辻堂駅北口・駅前広場と大規模商業施設



まち歩き後の説明会

ランドスケープ事情

「サンクトペテルブルグの都市景観」

私は2011年5月、国際デザイン会議「エコデザイン2011」がロシアのサンクトペテルブルグ工科大学で開催されるのに合わせ、サンクトペテルブルグ市を訪れる機会を持った。

サンクトペテルブルグはロシア西部、バルト海のフィンランド湾最東端、ネヴァ川河口デルタに位置する。ロシア有数の港湾都市、産業都市であるとともに、鉄道・国際航路の要衝であり、モスクワに次ぐロシア第二の都市でもある。18世紀初頭にロシアのピョートル大帝がヨーロッパの様々な都市や建築を参考に建設した人工都市で、帝政ロシアの首都であった時代を経て、今もなお文化芸術の中心地の地位を保ち続けている。エルミタージュ美術館をはじめとした優美で壮大な建築、豊かな緑量の広々とした公園、ネヴァ川や市内のいたるところを流れる運河にたたえられた水などがダイナミックに調和した、都市景観美のお手本のような街である。「北のベニス」とも呼ばれるこの街は、ヨーロッパで最も美しい都市のひとつに数えられ、私の訪問した白夜の季節にはその美しさがいっそう映える。

そうした風景に目を奪われているなか、たまたま道路改修工事の工事現場にさしかかった私は、そこにうずたかく積み上げられた舗装材の、日本とはかけ離れたその寸法に衝撃を受けた。自然石の敷石は大きさが60cm×120cmで厚さが10cm以上、縁石にいたっては断面が40cm角以上もある。日本で施工される場合、グレードの高い道路に使われる舗装材で



豊かな水と緑と歴史的建築が美しく調和した、サンクトペテルブルグの都市景観



道路改修工事現場に積み上げられた巨大な舗装材

2

「日本橋室町再生計画」プロジェクト報告



團 紀彦

建築家 / 都市計画家

中央通りの西側は辰野金吾による日本銀行本店やトノウブリッジ・アンド・リビンググストンによる三井本館がそしてその左右に横川民輔の三越本店といった欧化政策を体現した西洋新古典主義の建築群が立ち並んでいるのに対し、東側は関東大震災まで魚河岸があり敷地は小割りで昔ながらの老舗が立ち並ぶ江戸情緒の残る区域である。

中央通りはこの二つの区域を東西に分かっており、江戸桜通りがこれらをつなぐ役割をになっていた。瀨代照覧^{せだいしょうらん}※に描かれた江戸の町並みと明治以降の西洋建築、及び高層ビル化するモダニズム建築とはともに江戸東京を形作る三つの遺伝子であると言える。

室町を中核とする日本橋再生計画の意義は、こうした過去から現代に至る東京の縮図としての都市景観を再統合することにあつた。この度三棟の高層ビルが完成したことによってそれらが面する中央通り、江戸桜通り、仲通り、浮世小路、あじさい通りの五本の街路空間が今後の発展の布石として一応の完成を見た。

これまで高層ビルはその性格上、町並みの連続性を作り出すことが困難であるとされてきた。この景観問題を克服するためには各棟を三層構成とし、低層部は特に街路空間を形成する要素として街路の一部とし

て位置付けた。

中央通りや江戸桜通りといった比較的大きな通りには三井本館にならうコーニスラインと大列柱の分節といった景観の基本文法を取り出し、仲通りなどヒューマンスケールの通りには、列柱性を消去して大庇、小庇の水平感と縦格子あるいは信長塀柱の構成による伝統的な街並みの再生を試みた。東西に分断されていた江戸桜通りには中央通りとの交差点にコーナーランタンによるゲート性を与え、列柱によるリズムを東側まで延伸させてその連続性を取り戻すことを試みた。仲通りと江戸桜通りの三街区のコーナーには大庇を設け、江戸の界隈に欠かせなかった四つ辻の結節点とした。

完成形になるために一つの求心性が宿る傾向の強い建築単体の論理と、様々な要素の共存する多元的な都市の論理とはもともと真逆の方向性を持っていると言える。日本橋室町再生計画ではこの二つの異なる論理の調停によってそれぞれの街路空間の歴史的文脈に対応した景観の連続性が創り出されている。

※編集注：文化2年（1805）の江戸の、日本橋から今川橋までの大通り（現在の中央通り）を東側から俯瞰描写した絵巻。（ベルリン国立アジア美術館蔵）



日本橋室町 3 棟の高層ビル群



信長塀柱で構成された仲通り



日本銀行から続く江戸桜通り



福徳神社（社務所）前のオープンスペース



賑わいの残るむろまち小路

須田 武憲 GK 設計 代表



断面寸法 40cm角の縁石



ムソルグスキー・オペラ・バレエ劇場

すらそれぞれ1/3の寸法でも実現できないだろう。車道は小舗石舗装、歩道は大判の自然石舗装、沿道の建築との境界は小割りの自然石舗装と機能的にとっても合理性のある構成となっている点も参考になる。また装飾的な舗装パターンは排除され、車道の小舗石の銀杏貼りや横断歩道の石の色によるコントラストにわずかにデザイン操作が見られるが、道路として風景のベースとなるシンプルで落ち着いた感じられる空間を形成している。

私はヨーロッパにおけるローマ時代から続くインフラストラクチャーに対する考え方、「国家や都市の基盤として1000年ものものを造り、世代を越えて管理する」というものを目の当たりにした思いであった。建設時期の経済情勢や予算規模に左右されるのではなく、遠大な未来を見据えて真に必要なものにきちんと投資するその姿勢を見習いたいものだ。

サンクトペテルブルグは旧レニングラードオーケストラに代表される第一級の音楽文化の都市でもある。私はムソルグスキー・オペラ・バレエ劇場でオペラ「トスカ」を観劇し、本物の迫力に興奮さめやらぬまま外に出ると夜の10時になっていた。しかし白夜が始まろうしているこの季節のこと、まだ夕闇も感じられない光の中で、人々がディナーの相談でもしているのか笑いさざめきながら、三々五々散って行くのを見たとき、歴史と風土が育んだ文化の厚さと、人々の生活の豊かさに深くところをうたれた。

Question : アートと都市・地域の関係は、今どのような傾向にありますか? ~その1~

Answer

前号で「2000年代にはアートが街の人びとと直接的に関わる時代へと変化した」と述べた話を進めたいと思います。バブル崩壊後、パブリックアートは日本社会から消えていきましたが、欧米では引き続き時代のニーズを取り入れながら柔軟に展開していきました。例えば米国では、主な資金制度である「アートのための%」で、自動的に恒久的な作品をつくる時代は幕を閉じますが、その後は、「%予算」を貯めて、効果的なプロジェクトに集中的に使ったり、イベント企画やアーティストの教育、市民へのアウトリーチ・プログラムの実施等、自由度が高い使い道がもうけられています。人びととパブリックアートの関わりをより強いものへと変えてくような工夫がなされているのです。

2000年代に入り、欧米だけでなくアジアや南米の国々では、行政主導のプロジェクトだけでなく、民間主導による試みも活発になされ、アートは昔とは比べ物にならないほど様々な形で、社会や地域との関わりを持ちはじめています。こういった「多様性」こそ、都市や地域とアートの関わり方を考える上でのキーワードです。それ故、立ち位置によって議論が食い違ってしまうことや、一見「何でもあり」のような印象を受けるかもしれません。そこで、ここではその特色を3つのカテゴリー：「景観型」「社会参加型」「都市イベント型」に分けて紹介したいと思います。

今号は、都市デザイン・都市開発整備の領域と強く関わりをもつアートのカテゴリーに入る「景観型」の紹介です。

都市イメージ、ブランド力の向上に貢献するもので、これまでのパブリックアートの主流といえます。モニュメンタルなスケールで都市イメージを担うものから、都市インフラ・デザインに寄与するような作品まで表現手法にユニークなアイデアを加え、世界中に数多くのプロジェクトがつけられています。特色としては恒久的な作品が多く、公共空間やオープンスペースが活用され、著名アーティストによるベンチやパーゴラなどから、歩行デッキ、電気配電盤などのユーティリティ・デザインといった景観エレメントまで、世界各国で大変多くの事例があります。また、建物の耐震補強の目隠し機能を兼ねたアートウォールなど、日本特有な課題や必要性から生み出されるケースも現われてきました。



「景観型」の作品：ヒューストンの地下駐車場の入口
マーゴ・ソーヤ作『色のシンクロニシティ』(2008)

景観ビジネス最前線

柏の葉スマートシティ
「ゲートスクエア」
7月グランドオープン!



三井不動産 三井不動産レジデンシャル

お問い合わせ先 / 三井不動産(株)「柏の葉街づくり推進部」: TEL.04-7137-2227
三井不動産レジデンシャル(株) パークシティ柏の葉キャンパス 二番街 柏の葉ライフミュージアム 【住宅販売事務所】: 0120-130-321

ホワイトボード

今回、ご紹介した3つの事例(湘南C-X、日本橋、サントペテルブルク)で街が景観を時間軸でどのように位置づけていくかの多様性を垣間みた。この多様性こそ景観が文化に昇華していく大きなプロセスであると思えた。期せずして「まちとアート」で

もこの多様性がテーマとなり、興味を引いた。

●お知らせ: TDA 『まちなみスケッチ塾展2014』

期間 / 7月23日(水)~27日(日) 場所 / 品川区民ギャラリー(大井町駅前イトーヨーカドー8階) 詳しくはwebで!